



## 日本未記録のキスジラクダムシ科の幼虫の形態

江崎 功二郎

ラクダムシ目はセンブリやクサカゲロウなどの脈翅目と近縁(大原, 1987)で、ラクダムシ科とキスジラクダムシ科の2科に分かれており、日本からはそれぞれ1科1種が知られている (Fig. 1)。

ラクダムシ科のラクダムシ(和名)は、幼虫がマツ類の枯損木に生息するため、海岸から内陸部のマツ林で見られ、本州、四国、九州の広い範囲に分布する。

キスジラクダムシ科のキスジラクダムシ(和名)は、原記載以降採集記録が少ないにもかかわらず、本州、四国、九州に採集記録があり、いずれも海拔1000m程度の原生林に近い環境で採集されている。石川県では白山周辺に記録があり、カエデの花から得られている。キスジラクダムシは前記の通り日本には1科1種であるが、大原(1987)は各所で採集された雄の交尾器などの形態差に着目して、日本に生息するキスジラクダムシ科を複数の種に分類できると考えている。

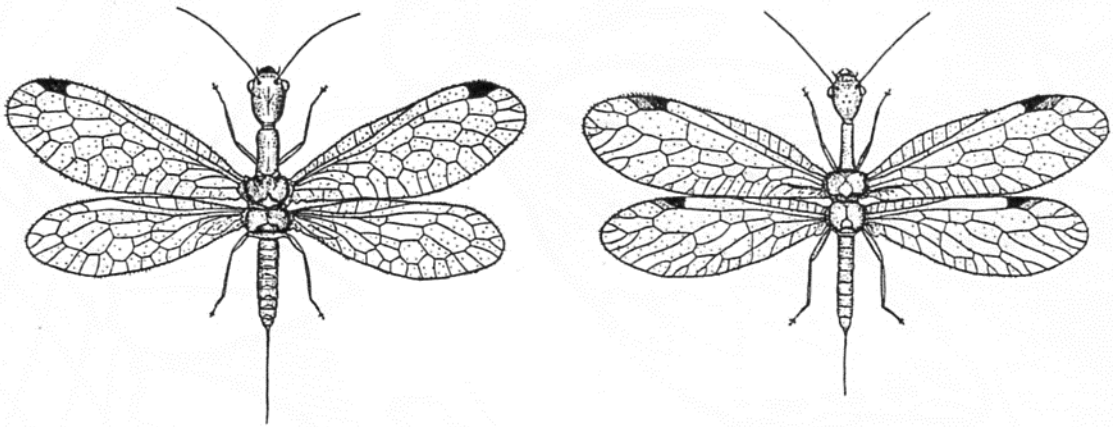


Fig. 1 ラクダムシとキスジラクダムシの成虫 [川瀬(1986)から引用]

ラクダムシの幼虫(Fig. 2)は、マツ類の枯損木の樹皮下に生息し、穿孔虫の幼虫などを捕食している。そのためラクダムシの幼虫は、石川県の海岸マツ林の枯損木から比較的簡単に見つけだすことができる。一方、キスジラクダムシの幼虫は採集記録はなく、全く未知であった。このキスジラクダムシ科の幼虫を石川県で採集することができたので、記載に先立ち報告しておく。ここでは大原(1987)の報告に信頼性があるとして、石川県のキスジラクダムシは一応未記載種として扱い、キスジラクダムシ科の幼虫として報告する。

表紙デザイン：小幡 英典

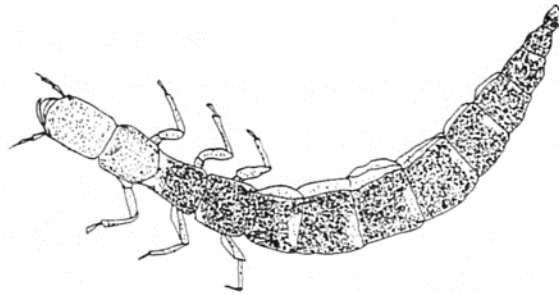


Fig. 2 ラクダムシの幼虫(体長約14mm)

1994年6月25日、石川郡白峰村大杉谷(標高520m)、クリの老齢木(根元直径約60cm)の樹皮中で採集した。ラクダムシの幼虫との一見しての違いは、腹部背面の色がラクダムシでは濃いこげ茶色であるのに対して、本種ではうすい茶色である。形態的な差異はFig. 3に示した通りに触角基部(b)と触角の基部周辺(a)に著しい違いがあり、ラクダムシの幼虫とは明らかに異なっている。しかしこれらの形態的差異が認められるものの、比較個体がこの1頭だけであるので、これがその種を代表しているかは不明である。

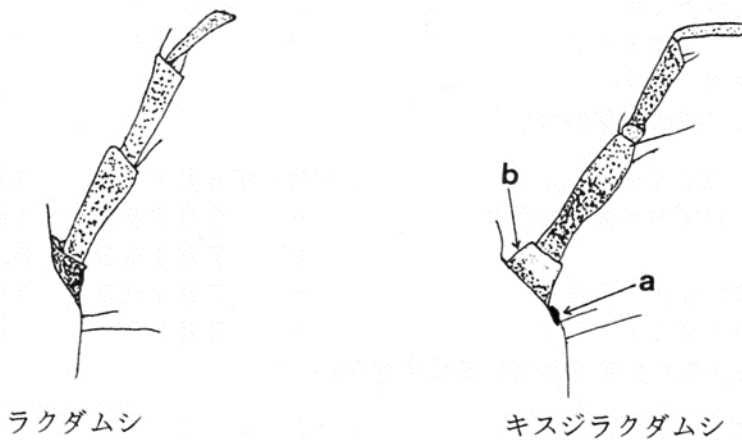


Fig. 3 ラクダムシとキスジラクダムシの右触角

今後、石川県でこの幼虫の追加記録が期待されるが、雄成虫の採集記録も重要で成虫・幼虫の同時記載に期待がかかる場所である。春に白山周辺に採集に出かける人は、是非注意して頂きたい。

《 参考文献 》

- 大原賢二, 1987. 日本産ラクダムシ類の研究(1). 徳島県博物館紀要, 第18集: 31-37.  
川瀬勝枝, 1986. 日本産ラクダムシ目について. インセクタリウム, 25: 14-19.

## 瀬女高原のカミキリムシ

高田兼太・井村正行・江崎功二郎

石川郡尾口村の瀬戸地区と女原地区から三村山にかけて瀬女スキー場がある。手取川ダムを望む標高500m～1200mの、この一帯が調査場所の瀬女高原である。

この瀬女高原において、カミキリムシを以下のように採集したので報告する。瀬女高原は比較的原生林が残っており、サワグルミやシナノキを優占種とした植生が発達している。現在公園整備のため一部伐採されており、ここにカミキリムシが集まっている。

1. カラカネハナカミキリ	1994年6月18日	1頭
2. ムネアカヨコモシメハナカミキリ	" 6月18日	4頭
3. ミワヒメハナカミキリ	" 6月18日	3頭
4. チャイロヒメハナカミキリ	" 6月18日	1頭
5. フタオビノミハナカミキリ	" 6月18日	3頭
6. アオバホソハナカミキリ	" 6月18日	1頭
7. チャイロホソヒラタカミキリ	" 7月10日	1頭
8. アカネカミキリ	" 6月18日	3頭
9. シロオビチビヒラタカミキリ	" 6月18日	3頭
10. アカネトラカミキリ	" 6月18日	1頭
11. ヒメクロトラカミキリ	" 6月18日	1頭
12. ドウボソカミキリ	" 6月18日	1頭
ブナ帯以外での採集例は少ない。		
13. エゾサビカミキリ	1994年6月10日	多数目撃
14. マヤサンコブヤハズカミキリ	" 6月18日	1頭
	" 7月10日	3♂
15. フタオビアラゲカミキリ	" 7月10日	1頭
16. ホソヒゲケブカカミキリ	" 7月10日	1♂1♀
県内では少数が採集されているにすぎない。		
17. フチグロヤツボシカミキリ	1994年7月10日	1♂
18. シラホシカミキリ	" 7月10日	1♂1♀
19. シラホシキクスイカミキリ	" 7月10日	1♀
白山釈迦林道以外での採集例はない。		
20. クロニセリングカミキリ	1994年7月10日	1頭
21. ソボリングカミキリ	" 7月10日	1♂
県内では少数が採集されているにすぎない。		

《たかだ けんた 〒920-11 金沢市若松町警備野3番地 山本和男方》

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

《えさき こうじろう 〒920-23 河内村内尾口76-2》

## キノコ周辺で得られた石川県初記録の甲虫その3

松井 正 人

キノコ周辺に集まる虫を採り始めてそろそろ1年になる。最初はなかなか採れなかったが、発泡スチロールのトレーの上に落としたり吸虫管を使ったりして、近頃は採れるようになった。また、高羽正治氏のおかげで虫の名前がすべて分かり、もっと採ろうとの思いも募った。こうして初記録の報告ができるのも同氏のお陰と、ありがたく思っている。

なお、ハネカクシについては高羽正治氏を介して林 靖彦氏に同定していただいた。両氏に深くお礼申し上げたい。

## 《ハネカクシ科》

チビハバビロハネカクシ Proteinus crassicornis Sharp

1993年10月16日 白峰村太田谷 3頭 松井正人 採集

シバタチビハバビロハネカクシ Proteinus shibatai Hayashi

1993年10月16日 白峰村太田谷 1頭 松井正人 採集

ゴトウチビハバビロハネカクシ Proteinus gotoi Hayashi

1993年10月16日 白峰村太田谷 5頭 松井正人 採集

## 《ツツキノコムシ科》

コウノツツキノコムシ Cis konoi Chujo

1994年 4月17日 鳥越村鳥越城址 1頭 松井正人 採集

アルマンツツキノコムシ Rhopalodontus harmandi Lesne

1993年 7月24日 津幡町三国山 1頭 松井正人 採集

カタキバツツキノコムシ Octotemnus japonicus Miyatake

1994年 4月17日 鳥越村鳥越城址 1頭 松井正人 採集

## 《キノコムシダマシ科》

アカバコキノコムシダマシ Pisenus insignis Reitter

1994年 5月 7日 白峰村白峰 1頭 松井正人 採集

## 《テントウムシダマシ科》

イツホシテントウダマシ Leistes decoratus Gorham

1994年 5月22日 白峰村白山釈迦林道 1頭 松井正人 採集

## 《コガネムシ科》

トゲマグソコガネ Aegialia(Leptaegialia) denticollis Lewis

1994年 5月22日 白峰村白山釈迦林道 1頭 松井正人 採集

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## メスグロヒョウモンの第2化と蛹越冬

松井正人

メスグロヒョウモンは年1化で、秋に産まれた卵は年内にフ化するが成長せず、初齢幼虫で越冬することが知られている。ところが、秋(1993年)にフ化したものの一部が成長し、年内に羽化したものと蛹越冬したものがあつたので報告する。

## 《はじめに》

人工採卵で得た多数の卵(100卵以上)を、越冬用にスマレを植えた植木鉢に移し、室内に放置していたところ、スマレの葉に食痕が見られ、幼虫が成長しているのに気がついた。成長していた39幼を飼育容器に移し、スマレの鉢はその後しばらく室内に置いたが、成長してくるものが無かつたので、植木鉢にストッキングで蓋をし、越冬用に庭へ出した。39幼は室内で飼育し、32幼には途中から加温したが、残る7幼は加温しなかつた。飼育中は、容器の横に最高最低温度計を置き、温度を計った。

## 《加温グループ》

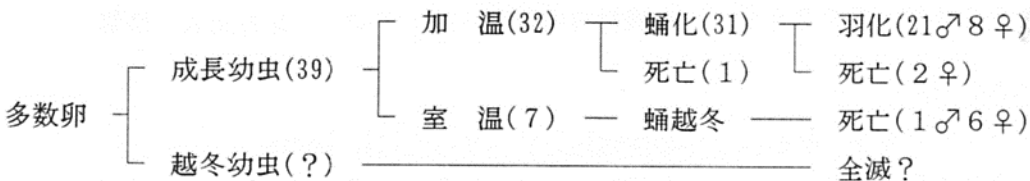
時期、気温ともにはっきりしないが、朝晩が冷え込むようになった頃から、40W電球で温めた。朝7時頃から午後8時頃まで20℃～25℃としたが、それ以外は室温としたため夜間は最低14℃まで下がった。32幼のうち1幼2蛹が死亡し、11月15日～30日にかけて21♂8♀が羽化した。しかし、30%にあたる5♂3♀は羽化不全で、これらは羽化の初期に集中した。

## 《室温グループ》

11月19日～12月3日に蛹化し、観察を始めてからの温度変化は8℃～25℃だった。その後、月に1、2度蛹に触ってピクピク動くかどうかで生死を確認していたところ、翌年の3月18日までは確実に2蛹は生きていた。総てが蛹化した12月3日からの温度変化は2℃～22℃だった。4月に入り、6日には33℃まで上がったが羽化の兆候はみられず、5月になって総ての蛹が死んでいるのを確認した。蛹には成虫体ができあがっていて、斑紋より雌雄が区別できた。

## 《越冬グループ》

スマレの植木鉢にいて庭に出した初齢幼虫は、翌春スマレの芽生えと共に成長を始めると思われたが、1頭も成長してこなかつた。



(カッコ内は頭数)

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## ジャコウアゲハの石川郡鶴来町での採集・目撃記録

高田兼太

ジャコウアゲハは石川県において金沢市から能登地方にかけての地域、および小松市以外の地域から記録されていなかったが、筆者は林業試験場より委託された鶴来町樹木公園の昆虫採集調査中に、本種を採集・目撃したので報告する。

1994年5月 4日	鶴来町樹木公園	1頭採集	高田兼太
1994年5月13日	鶴来町樹木公園	1頭目撃	高田兼太

上記以外にも成虫を何頭か目撃している。樹木公園で発生している可能性が考えられるが、食草であるウマノスズクサは確認していない。

樹木公園内での採集の機会とさせていただいた林業試験場の方々、および貴重なご意見をいただいた松井正人氏にお礼申し上げます。

《たかだ けんた 〒920-11 金沢市若松町警備野3番地 山本和男方》

## 石動山のカンアオイとカラハナソウ

松井正人

鹿島郡鹿島町石動山で、カンアオイとカラハナソウを見つけたので報告する。

## 《カンアオイ》

カンアオイの自生は金沢市までと思われ、津幡町以北には見られない。ところが能登地方においても、ポツポツとカンアオイが見られる。ほとんどが寺社地で、移植されたものと思われるが、中には移植とは思われないものもある。ここのものは各地の寺社に見られるソノウサイシンで、旧観坊近くの戒定坊跡のスギ林に見られた。石動山の山頂から石動山町にわたる山林一帯は、加賀白山宮と並ぶほどの勢力を誇った石動山天平寺が、平安時代から江戸時代まで栄えていた。おそらくその当時に移植されたものだろう。

## 《カラハナソウ》

クジャクチョウは石川県にも分布しているが、幼虫期は不明で何を食べているのか分かっていない。可能性の高い食草の中にカラハナソウがあり、白山地方ではずいぶん捜しているが見つからない。そんなカラハナソウが能登で見つかり、たいへんびっくりした。石動山町から南東の荒れ地に広く自生している。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## マ ッ ク が 来 た

指 田 春 喜

私自身は俗に言うファースト・フードは嫌いであるし、特にハンバーガーを自分から買って食べることはよっぽどのがない限りこれまでなかった。こんなタイトルと書きだしの文章を読むとたいがいの人は、高校生を始めとする”より若い人達”がよく利用する繁華街の例のハンバーガーの話かと思うであろうが、そうではない。1、2年程前まではこんな私でさえも「マック」と言えば、それはハンバーガーであった。しかし、しかしである。ハンバーガー大好き小僧の小3の我が家のせがれでさえも今や「マック」と言えば、ハンバーガーではなく、コンピューターを指すようになった。

このアメリカ・アップル社のコンピューター・マッキントッシュ（通称マック）を購入したのは去年（1993年）の確か10月であったか。大学での仕事（学会発表・論文作成そしてもちろん教育）に今やワープロ・パソコンは無くてはならないが、これまでコンピューターを使って化合物の構造式（例の亀の甲である）を書くのは専ら学生にやらせていたが、いつまでもそうばかりしてはいられず、いよいよ部屋のパソコンにさわらずにはいられなくなった。となると、だいたい誰かが使用中の1台を不慣れな私が長い時間独占し、つきっきりで学生に教えるを乞う訳にもいかず、おまけにあまりにも基礎的なことをそう何度も何度も同じ学生に聞くのは、第一、多くは捨て去ったとは言え、私のプライドが許さない。そこで、「よし、この際、少し奮発して、教室の機種と互換性があるコンピューターを自分で買おう。そうすれば、家で少しは仕事（練習）もできるし・・・。」という結論に至った次第である。

レーザー・プリンターとセットで36万円（LC520）！という私にとってはかなり大きな出費だが、それより「せっかく買ったんだから、使わなければもったいない。」という自分自身を敢えて追い込むことによって（カッコイイネ！）、このコンピューターを使いこなせるように仕向けたのである。

私自身ワープロについては、1985年の終り頃より、当時フロッピーディスク・ドライブが付き始めたばかりの東芝のルポを使っていた。24ドット。第一水準漢字のみ。表示されるのは40字、3行の代物である。しかし、これで大学の仕事はもとより、蝶関係では、ラベル作り、そしてこの「翔」、「多摩虫」などの同好会誌の原稿をはじめ、「昆虫と自然」、「月刊むし」、鱗翅学会の「やどりが」、蝶類学会の「Butterflies」などにこれまで66編の駄文を書いてきた。しかし、それも8年目で修理不能のガタガタとなり、息子のおもちやにもなり得ず、粗大ゴミとあいなったのである。そして、ワープロをまた購入するかはたまたパソコンにするかのよくある選択にせまられた訳であり、先のいきさつで後者にころんでしまったのである。何を隠そう、この36万円の出費が私をして去年（1993年）の夏休みの海外採集を取り止めさせたのである。



(影の声) それにもかかわらず一昨年末には奥様に三菱の4WD車RV Rをプレゼントするわ、家族をバリ島に連れて行くわで、自分の欲望を押さえ切るところはえらいねエ・・・、ホント。

ちよっと話が横道に逸れ、また前置きが長くなったが、現在、初期の目的であったワープロとしては、マックを何とか使いこなせるようになり（この原稿も当然マックで書いているのじゃ）、もっとも家で仕事をしたことは一度もなかったが・・・。そして3月からは、昆虫関係（主として蝶だが）の文献のためのデーター・ベースを作りはじめた。ソフトにクラリス社のファイル・メーカー・プロを使用し、論文タイトル、著者、雑誌、年・巻・頁、対象（蝶、クワガタムシ、昆虫一般、etc）、地域（国内：ほぼ県単位、海外：東南アジアを中心に国単位）、時期、分類（新種などの記載、採集記、採集記録、生活史、生態、etc）種類（種名）などの10項目を入力し、検索可能とした。1日50件を目標にして、「月刊むし」からはじめ、7月1日現在、これまでに約2000件の入力を行った。石川県のデーターについては、松井氏をはじめ何人かのその道の達人が既に同様な作業を行っていることは聞きおよんでおり、今さら私の出る幕でもないから、国内ではギフチョウをはじめとする人気種の採集ポイント、東南アジアをはじめ海外ものでは、記載や採集案内を充実させたく思っている。筆者自身所有の雑誌（9タイトル）だけをまず第1期目標として、3ヶ月で5000件を入力する予定である。

一昨年末に、スポンサー、ガイド、通訳、そしてポーターまでのひとり4役もこなして、バリ島にご招待したオペレーター（女性36歳、大卒、薬剤師、運転免許あり、既婚子供2人、飲酒大好き）が私の身のまわりのごく近くにひとりいるのだが、これが戦力になるかどうか今後の進展のカギを握るのは言うまでもない。蝶談会会員諸氏のご声援をお願いする次第であります。

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

## 宝達山のヒョウモンチョウ

松井 正人

押水町宝達山のピークにオカトラノオが咲いている。道路の斜面に10㎡程咲いていて、ここからは富山県小矢部市の稲葉山が良く見える。このシーズン、たくさんのヒョウモンチョウが吸蜜にやってくる。今年(1994年)の7月16日には、ウラギンヒョウモン、ウラギンジヒョウモン、オウラギンジヒョウモン、メスゴヒョウモン、ミドリヒョウモン、クモガタヒョウモンと、県下に産するほとんどのヒョウモンチョウが見られた。あと少しすればツマグロヒョウモンも飛んでくるので、キノボヒョウモンを除く県下総てのヒョウモンチョウがここで見られる事になる。運が良ければ、同時に見られるかも知れない。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

温泉セットが七つ道具に加わることになる。ハードな採集の後は温泉ですよ、お父さん。

### 高岡田君は過変態か

最初は確かカマキリモドキ、そして何時の頃からかゲンゴロウダマシと呼ばれ、今は江崎氏と連れだって、カマキリモドキになっていて、これに変態が完了するのか、それとも更なる変態をとげるのか。

### 瀬女高原に響きわたる雄啼

日没も迫り、車へ戻る道すがらにも必要に花や枯木をすくっていた高田君のネットにそれは落ちた。同定できない彼は、石川県のカミキリ博士こと井村博士に見せると、博士は何食わない顔で種名を言うてのけたが、わずかに声の調子が違っていた。彼の指南役たる江崎師範代と博士は、彼よりちよっぴりたくさんの獲物を採っていて、採集法を伝授している最中だった。師範代の顔色が変わり、博士は付け加えた。県内ではまだ一箇

所でしか採れていない。それも1本の木から。かくして高田君の口から雄啼があがった。

### 石川カミキリトリオは梓山

井村博士と江崎師範代は高田門下生を従え、七月十二日夜半、長野県は川上村へ向かった。平日にもかかわらず梓山は猛者であふれかえり、我等がカミキリトリオはその中であつて首尾良くアカムネハナを手中に収めた。

### 梓山の次は御岳のカラフト

快進撃の続くカミキリトリオ、身動きがとれなくなつた博士を切り放し、十五日夜半から木曾の御岳へ向かつた。カラフトコバネ、ミドリヒメスギ等、昼は珍品に笑いをこらえ、夜はライトトラップという名の野宿で酒盛大宴会。ニコニコ顔で帰ってきた。

### 県下のヒヨウモン勢ぞろい

松井氏、バケツトラップの回収で毎週宝達山通い。天気が悪いと気も重くなるが、晴

てると蝶もたくさん飛んでいてルンルン気分。今はピークのオカトラノオで県下のヒヨウモンのほとんどが見られる。

### バケツトラップで初記録!

アカネプロジェクトの成果はまだほんの少ししか出ていないが、宝達山のバケツから県内初記録が出た。詳細はそのうち発表する予定だが、まだまだ初記録が出るような予感がする。

### 今度はタイランドへ八日間

この正月にペナン詣でをした澤田氏、今度はタイランドへ八日間。七月三十日に帰国するが、半年に一度の出入国となると指田氏と肩を並べた事になる。指田氏はとくにインド系の顔付になっているが、氏の顔付は全く日本人のまま。五つ星しか利用しないようでは、何時まで経つても外国人ということか。

階にて8時から開催。

県内に昆虫館ができるとの話について、銘々の思いを話し合つた。標本寄付の話があるが、標本の管理さえしつかりされれば寄付しても良い。寄付なんてとんでもない話だ。箱に十億かけるなら、中身にも十億かけるべきだ。ただで集まるような中身では誰も見向きもしない。美術館を作るから絵は寄付して欲しいなんて話は聞いたことが無い。なぜ虫はいつも寄付という話になるのだろうか。等と意見は大きく二つに分かれていた。その他の話題では、アフリカの蝶二万円セット、一週間は月月火土日日日で採集は週4日、瀬女高原のカミキリはおいしいぞ、マックはマクドナルドではありません、ギンイチは今年も一コだけ、「警笛ならせ」にギブが来る、等でした。

参加は、嵯峨井、井沢、井村、江崎、松井、中西、指田、徳本、高田、生田、小幡、竹谷の十二人。

### 例会の記録

六月三日(金)城南管工二

# 会員の動き・しゃばの動き

アカネプロジェクト超多忙  
石川全県にセットしたバ  
ケットラップの総数約八十。  
ここから毎週、種々雑多な虫  
がどんどん入ってくる。仕分  
けは簡単だが、同定となると  
たいへん。トラップの中身は  
俗に雑虫と呼ばれる虫がほと  
んどで、これを同定できる人  
物は限られる。プロジェクト  
メンバーでも蝶屋は暇そう  
な顔をしているが、雑虫屋は必  
死に数をこなしている。

虫は年々小さくなつていく  
昔はでかいドイツ箱を抱え、  
「この虫は」と見せびらかし  
ていた。最近ではポケットから  
名刺のケースを取りだし、中  
にぎっしり並んだゴマのよう  
な虫をルーペで眺め、なにや  
らゴソゴソやっている。眼は

とつくに凸レンズのお世話に  
なっているのに、虫はだんだ  
ん小さくなつていく。これっ  
ておかしいとおかしいと思  
いませんか。

めつきり静かな六月七月  
なぜか、蝶談会は火が消え  
たような静けさに包まれてい  
る。原因はお祭りコンビこと  
中西、井村の両氏が超多忙と  
かで、賑やか氏効果が發揮で  
きない事にある。新人効果で  
動きは活発なもの、両氏に  
よる増幅が無いので、傍目に  
は静かな蝶談会に映っている。

一夜漬けと単位と虫採り  
昆虫同好会に若い血が入ら  
なくなつて久しく、たまに現  
われる新人も四十路を過ぎた  
者ばかり。そんな中、ごく稀  
に登場する学生は、希有の存

在となる。おそらく各県に数  
人、各同好会となるというか  
いないかの存在だろう。こん  
な状態の同好会では彼らの居  
心地は決して良くない。

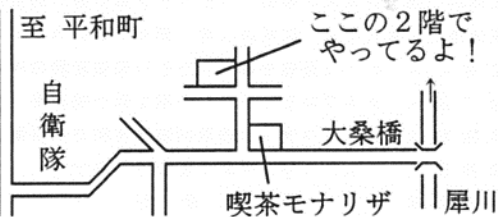
そこで彼らは横に手を広げ、  
同世代の集まりを作った。境  
遇、思考、行動力等々何かと  
話が合うらしく、会は大きく  
なりつつある。例会は持てな  
いが、連絡誌でカバーしてい  
るらしく、月に二、三冊は出  
ている。「一夜漬け・・・」  
がその名前で、会員の生き生  
きた様子が楽しく伝わって  
くる。連絡先は、

鳥取市湖山町南一の三四三  
川口様方 永幡嘉之

採集道具は数々あれど  
虫屋の七つ道具と言えば、  
ネット、ナタ、毒ビン、剪定  
バサミ等々数え上げたら切り  
がなく、おたく度満点の極め  
付けには木登り太郎やチェー  
ンブロック等もある。

しかし、採集に励めば励む  
ほど体力は消耗し、歳がいく  
ほどにこたえてくる。そこで、

例会は偶数月の第1金曜日8時から  
TEL参加もOKです(0762-44-3318)



翔 NO.109

1994年8月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

## 目 次 (109号)

江崎功二郎：日本未記録のキスジラクダムシ科の幼虫の形態	…… 1
高田兼太・井村正行・江崎功二郎：瀬女高原のカミキリムシ	…… 3
松井正人：キノコ周辺で得られた石川県初記録の甲虫その3	…… 4
松井正人：メスグロヒョウモンの第2化と蛹越冬	…… 5
高田兼太：ジャコウアゲハの石川県鶴来町での採集・目撃記録	…… 6
松井正人：石動山のカンアオイとカラハナソウ	…… 6
指田春喜：マ ッ ク が 来 た	…… 7
松井正人：宝達山のヒョウモンチョウ	…… 8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	…… 10